

沖縄平安座島* における 人家周辺の鼠と外部寄生虫について

比嘉ヨシ子** 下謝名和子** (昭和43年3月25日受付)

はじめに

我々の生活と密接な関係を持つ鼠は、いたる所に棲息し、農林業上その産業経済に及ぼす鼠害は勿論のこと、特に疫学的見地からネズミには外部寄生虫、内部寄生虫の宿主となり、それらが伝染病の媒介体となつたり、その影響は甚だ広く、かつ深刻である。

琉球列島産鼠については、1963年に内田博士により調査され、~~5~~属6種記録されている。今回の平安座島の調査(1967年9月12~14日迄)では、その種類を明らかにすると共に、繁殖時期の検討及び外部寄生虫について調べたので報告する。

材料及び方法

鼠の捕獲には捕鼠器(ケージ)を使用し、調査区の鼠の設置場所については、図1に示す通りである。なお餌はイカのテンブラを使用した。鼠の同定は、その外部形質上の特徴をもつて同定した。繁殖状態は雌の場合には、妊娠、哺乳、膣の開閉状態などで、雄では睪丸の陰囊内降下の有無によつて調べられた。クマネズミ成獣の外部計測値を求めるに当たり、頭胴長と尾長については黒田の方法にしたがい、体重についても計測した。

結果及び考察

1) 捕獲された種類

Rodentia 齧齧目

Muridae ネズミ科

Rattus rattus rattus (Linnaeus), 1758クマネズミ

Insectivora 食虫目

Soricidae トガリネズミ科

Suncus murinus riukiuanas (Kuroda), 1924

リュウキュウジャコウネズミ

以上きわめて貧弱な相である。部落は干潮時においては往来可能な海岸線に近い低湿地帯の人口密集地帯でありながら、ドブネズミ *Rattus norvegicus* は採集されず、クマネズミ *Rattus rattus* のみ採集された。そのことは、まだ同島が *Rattus norvegicus* の侵入を受けてい

ないものと推察される。元来 *Rattus rattus* は樹上生活に適し、暖地性起源を有する南方系、*Rattus norvegicus* は溝の生活に適し、北方系の鼠であるといわれている。また、*R. norvegicus* と *R. rattus* とをホームレンジ(縄張り)の面から見た場合、*R. rattus* は *R. norvegicus* に比べて勢力が劣るので、生息環境の変化、つまり人口が集中し、都市化するにしたがい *R. rattus* よりも *R. norvegicus* の方が多くなるようである。もともと沖縄の場合は始めの頃は、*R. rattus* が *R. norvegicus* に比べて多く生息していたものと思われる。それが貿易が盛んになり、船舶の出入りが多くなつて都市化して来ると、*R. norvegicus* の侵入を受けようになつた。それは内田(1963)が那覇における住家性小型哺乳類の分布、生態調査をおこない、高燥地帯では *R. rattus* のみ、港湾地帯では *R. norvegicus* のみが棲息していることを報告していることからわかる通りであり、またその後の調査からも言えると思う。平安座島においては、まだ *R. norvegicus* の侵入を受けていないと言えるのではないだろうか。

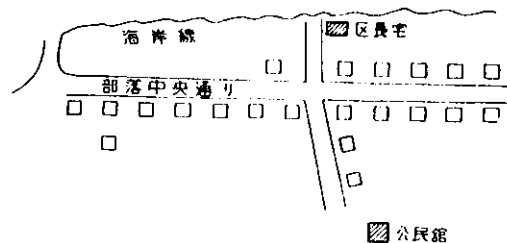
2) 捕獲率

図1で示すように約0.5haの当たり鼠50コ設置し、捕獲率は表2で示す通り *R. rattus* 26%、*Suncus murinus* が6%であつた。

3) 繁殖状態

表3、4で示したように成獣の性周期をみると、妊娠個体が多く、発情期にあるものもある。*R. rattus* では幼獣、亜成獣、成獣を含めて雌雄がほぼ同数捕獲されてい

図1 調査区の○の設置場所



* 沖縄本島中部に点在する離島

** 琉球衛生研究所 昆虫課

表1 採集された種類

- Rodentia 齧歯目
- Muridae ネズミ科
- Rattus rattus rattus (Linnaeus) 1758クマネズミ
- Insectivora 食虫目
- Soricidae トガリネズミ科
- Suncus murinus riukiuanas (Kuroda) 1924
- リュウキュウジャコウネズミ

表2 捕獲率及び捕獲場所

種 類	クマネズミ		ジャコウネズミ	
	♀	♂	♀	♂
場所				
家屋内外	7	6	1	2
捕獲率	13/50=0.26 26%		3/50=0.06 6%	

表3 繁殖状態及び年齢構成

種 名	♂				♀						合 計	
	成 獣	豆 成 獣	幼 獣	計	成 獣	妊 娠 中	胎 乳 中	発 情 中	非 発 情	正 成 獣		幼 獣
クマネズミ	3	1	2	6			4	2			1	7
ジャコウネズミ	2			2					1			3

表4 クマネズミの胎仔保有状態

検査ネズミ数♀	妊 娠 数	胎仔数 (着床)
7	4	6

1♀当り胎仔数24/4 = 6頭
 妊娠率 4/7 × 100 = 57.14%

表5 クマネズミの外部計測値 (成獣について)

性 別	単 数	頭 胴 長	尾 長	体 重
♀	5	146.0	168.4	76.4
♂	3	141.67	150.0	72

る。2頭以上採集されたネズミについては1例あつた。親1頭、幼獣♂1 (頭胴長85.0mm, 尾長90.0mm, 体重15g)。R. rattus の妊娠率は57.14%であつた。沖縄の自然環境の場合は、日本本土のように春、秋に繁殖期となるかどうかはわからないが、環境許容力が大きく、鼠類が生息していればかなり繁殖し得るものと思う。

4) クマネズミ成獣の外部計測値については、計測対象となつた雌5, 雄3頭について、頭胴長, 尾長, 体重を測定し、その結果は、表5に示した通りである。これを波島ら(1967)と比較してみると計測値がほぼ一致することを認めた。

外部寄生虫については R. rattus の雌成獣1頭よりネズミトゲダニを1個体採集した。

ま と め

1) 採集された種類はきわめて貧弱な2科2種であつた。

2) 捕獲率は R. rattus 26%, Suncus murinus が6%であつた。

3) R. rattus の妊娠率は57.14%で、その胎仔保有状態は1♀当たり6頭であつた。

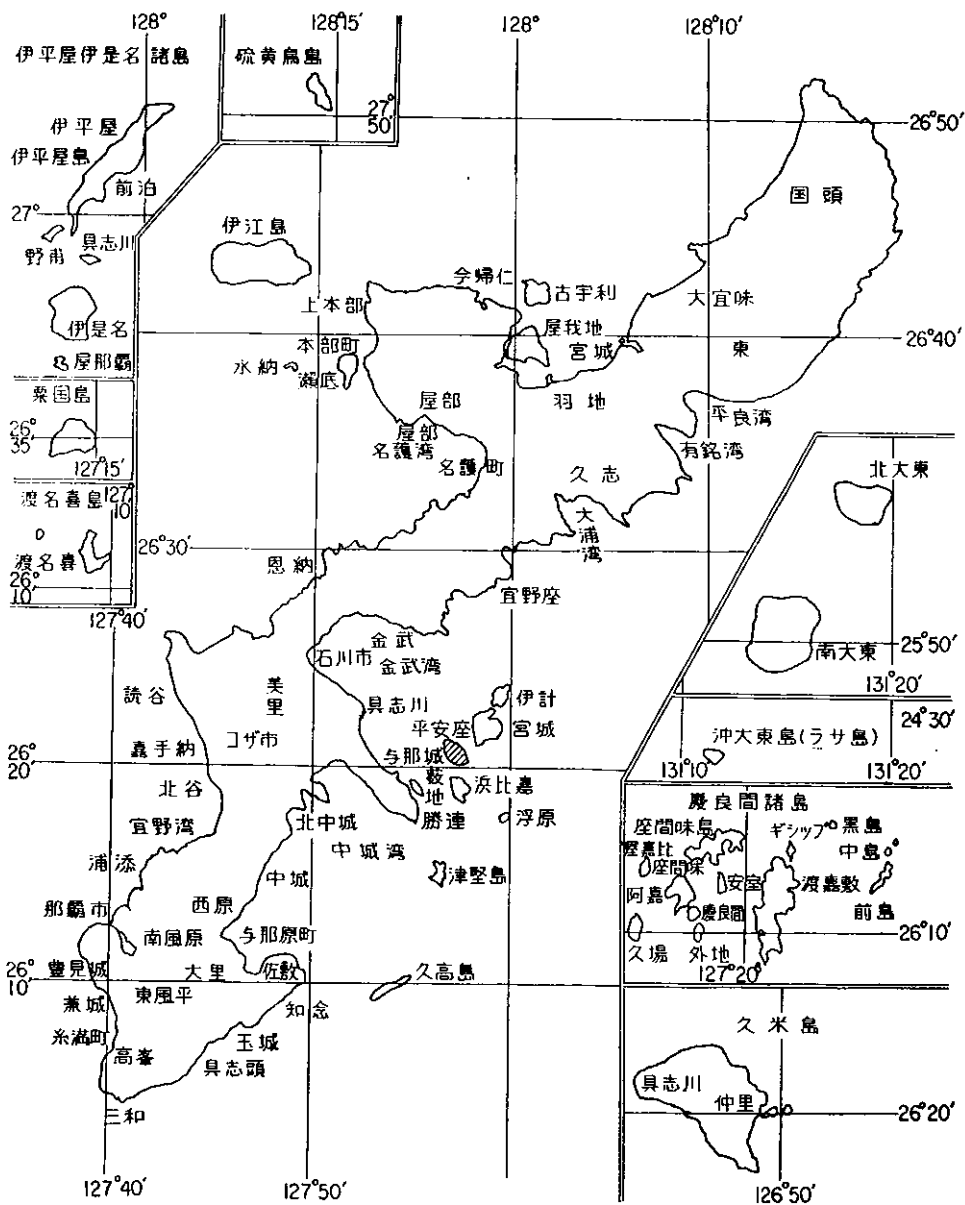
4) 環境許容力はさして大きくはないが、今回の調査では繁殖状態にあると思う。

5) R. rattus 成獣(♀5, ♂3)の頭胴長は雌で平均146.0mm, 雄で平均141.67mmであつた。尾長は雌で平均168.4mm, 雄で平均150.0mmであつた。体重は雌で平均76.4g雄で平均72gと計測された。

6) 外部寄生虫の寄生率は低かつた。

文 献

- 1) 平岩馨郎, 他5: 奄美郡島生物調査報告, 特に鼠と蛇との関係を追求して, 九州大学農学部学芸雑誌, 16(4), 525-546, 1958.
- 2) 内田照章: 琉球列島の哺乳動物相, とくに動物地理学的考察と鼠類の生態に関する2, 3の知見, 九州大学海外学術調査委員会学術報告, 第1号, 117-138, 1963.
- 3) 浜島房則, 他2: 北九州市八幡製鉄所内より捕獲された鼠に関する研究, 衛生動物, 18(4), 272-278, 1967.
- 4) 池田修, 他1: 横浜・川崎港におけるネズミおよびノミの調査研究, 1. 港湾地域の調査, 衛生動物, 18(4), 279-283, 1967.
- 5) 平岩馨郎, 他2: 延岡市サギ島における鼠禍, 1. 基礎調査および異常増殖に対する考察, 九州大学農学部学芸雑誌, 17(3), 321-334, 1959.
- 6) 田中亮: ネズミの生態, 古今書院発行, 1967.



(衛生検査, 第 17 卷, 第 6 号, 28~30, 1968)